

IV-24

駐車場のパターンからみた戸建住宅の景観特性に関する研究

大阪産業大学 正会員 川口 将武

大阪産業大学 正会員 榊原 和彦

非会員 河野恵美子

1. 研究の背景及び目的

1960年代に始まった日本のモータリゼーションは、住戸に駐車スペースを取り入れさせるといふかたちで住まいの形態に大きな変容をもたらすものであった。それが住宅地景観に及ぼす影響は極めて大きい。

そこで本研究では、戸建住宅地の景観特性の把握と評価手法の確立につながる知見を得ることを目的として、敷地内における住宅とオープンスペース（以後OS）ならびに駐車スペースの配置関係から駐車形態の類型化を図ることにより駐車パターンを捉え、それと住宅景観特性との関わりを考察した。

2. 研究の方法

都市近郊部の住宅である大阪府大東市を調査対象地に、駐車スペースを保有する住宅を現地踏査より写真撮影し（109戸）、駐車形態の類型化を試みた。まず、駐車スペースを住宅との関係から「住駐立体統合型」、「住駐平面分離型」に分類した。次に、敷地に対するOSの配置を道路からの見え方よりA～Fの6パターンに分類した。最後に、敷地に対する駐車スペースの配置を道路からの見え方よりa～fの6パターンに分類した（図1）。以上の分類を統合することによ

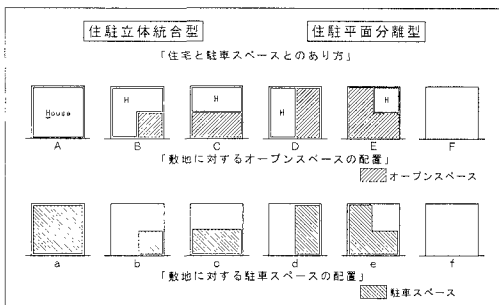


図1 駐車形態の類型方法

り駐車パターンを捉え、住宅景観の整齊感、広がり感、圧迫感、個性にどのような影響を及ぼしているのかを考察した。

3. 駐車パターンの把握

調査対象住宅109戸の駐車形態を類型化した結果理論的にあり得る72パターンのうち17パターンの駐車パターンが抽出された。その中で最も多く見られたものは、OSがほとんど存在せず、住宅の地上部の半分を駐車スペースに利用している住駐立体統合型-A-d型で、34戸（31%）を占めていた。次いで、OSが住宅前面に存在しており、一部を駐車スペースに利用している住駐平面分離型-C-b型が26戸（24%）と多く見られた。更に、OSが住宅側面に存在しており、そのすべてを駐車スペースとして利用している住駐平面分離型-D-d型が11戸（10%）と多く占めている結果となった（図2）。

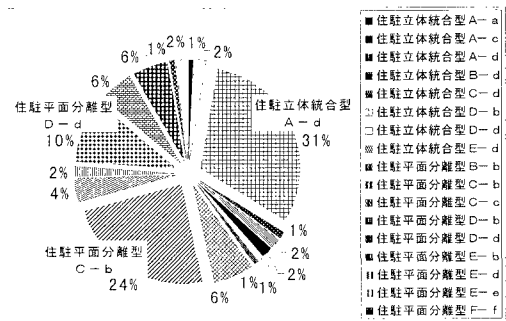


図2 駐車パターンとの類型

4. 駐車パターンからみた戸建住宅の景観特性把握

駐車パターンごとに戸建住宅の景観特性を見ていくと、住駐立体統合型-A-d型（写真1）は地上部に駐車スペースを設けているため3階建て住宅となり、道路に接して建てられるため圧迫感がある。また、物

Keywords : 住宅景観、駐車パターン、圍繞デザイン

Address : 大阪産業大学 工学部 環境デザイン学科

〒574-0013 大阪府大東市中垣内3-1-1 Tel : 0720-75-3001 fax : 0720-70-7857



写真1 住駐立体統合型 A-d 型

干しスペース確保のため2・3階部分にベランダやバルコニーが増設されることが多く、多くは雑然とした生活感あふれる景観となっている。

次に、住駐平面分離型-C-b型は、住宅前面のOSに自動車を駐車するため非常に自動車が目立つ一方、自動車がいない場合は前面OSの奥行きにより、比較的圧迫感は緩和されている（写真2）。また、住宅前面のOSにゆとりのある住宅は、高木植栽等を中心とした多様な庭の利用が試みられ、接道部分には塀や生垣といった囲繞が境界線を形成しており、各住宅により個性ある景観を構成している（写真3）。



写真2 住駐平面分離型 C-b 型

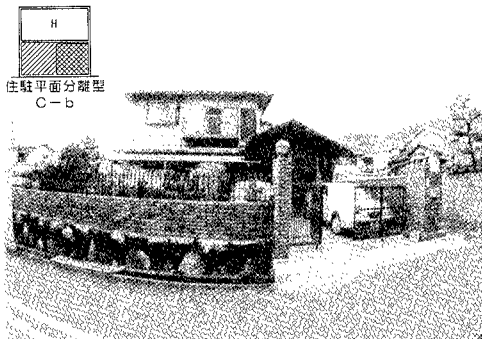


写真3 住駐平面分離型 C-b 型

そして、住駐平面分離型-D-d型は、住宅側面に駐車スペースが存在することで隣棟間隔が確保されるため、ぬけのある住宅景観となっているけれども、住宅のひらの部分が道路に近接して建てられる場合が多く圧迫感のある景観になっている（写真4）。



写真4 住駐平面分離型 D-d 型

5. おわりに

本研究では、住宅とOSならびに駐車スペースの配置関係から駐車形態の類型化を図り、駐車パターンを捉え、住宅景観の特性及び影響把握を試みた。その結果、典型的には4つの住宅景観を抽出することができ、塀、柵、生垣といった囲繞デザインに様々な個性が現れ、駐車スペースのあり方が住宅景観に大きく影響を与えていることが明らかとなった。しかし、未だにデータ量が少ない状況にあり更に多くの事例を収集することで、他のパターン抽出ならびに精確性を高めることが今後望まれる。

また、駐車パターンに影響を与えている条件は宅地規模あるいは間口幅であると考えられ、これらの関係を明らかにし定量化することが必要であろう。

【参考文献】

- 1) 秋月俊五：新しい住宅開発の潮流と自動車のあり方 ランドスケープデザイン NO.11 p.28～p.311
- 2) 武笠晶子・窪田陽一・深堀清隆：戸建住宅地の建築密度と景観評価の相関分析 土木学会第52回年次学術講演会講演概要集
- 3) 肥田野登・亀田未央：ヘドニック・アプローチによる住宅地における緑と建築物の外部性評価 1997年度第32回日本都市計画学会学術研究論文集